

栃木県テニスの
次代を担うジュニアの育成・強化

2013年12月

栃木県テニス協会

栃木県における次代を担う ジュニア育成・強化の現状

2007年に県体協の補助を得て
「一貫指導マニュアル」を作成
これを基に中期計画を策定し順次進行中

主な取り組み

- ・亜細亜大学にて県内強化指定の高校生を
対象とした強化合宿を実施
- ・関東ジュニア前に那須にて強化合宿を実施

成果

- ・北九州インターハイ シングルス
ベスト16 男子 油布将也(卒業)
ベスト16 佐々木遥 (高1)
- ・全日本ジュニア
16歳以下女子 佐々木遥
14歳以下男子 相原一樹 女子 諏訪円香
以上3名が出場
- ・全国中学生大会
金森拓仁 男子として11年ぶりに全国出場

戦績はいま一つ伸び悩み？
ジュニア登録数は、横ばい状況
少子化の影響か？

目的

栃木県におけるテニスの普及と発展の為、次代を担うジュニアの育成と強化を図る。

2007年より「次代を担うジュニア発掘・普及・強化10ヶ年計画」を推進してきたが、更なる強化を目指し、2020年東京オリンピック、2024年の栃木国体での活躍を目標とする。

方策

1. 参加し易い土壌作りと緊張感あるエキサイティングな大会作りを行い、
2. キッズ、ジュニア、一般、ベテランに至る発掘・普及活動の推進し、
3. 次代を担う若者に対し、ワールドワイドを目指し、一貫した指導システムを確立する。



ジュニア育成の中核的事業

1. 県内上位ランクジュニアの強化合宿
(県トレーニングセンター事業の立ち上げ)
2. 県内トップジュニアの海外遠征

他県の事例

宮城県では、ジュニアトレーニングセンター事業を始めて、数年足らずで昨年12歳以下男子シングルの全日本チャンピオンが誕生している。

主な内容は、1～2ヶ月に1回のペースでトップ指導者を招き県内トップジュニアの強化合宿を行う。

費用

1. 県内上位ランクジュニアの強化合宿

(県トレーニングセンター事業2回/年)

・参加人数:20名前後(各年代2~3名)

・コーチ費用:ナショナルコーチ

日当3万円×2日

宿泊・食費1万2千円

アシスタントコーチ

日当4千円×3名×2日

・コート代:1,250円×8面×2日

(高校生以下料金)

計 116千円×2回≒24万円

2. 海外遠征

・参加人数:4名(年ごとに構成を考慮)

・選手費用:一人当たり40万円

※県協会は参加選手の2/3を負担

計 40万円×4名×2/3≒106万円

24万円+106万円=約130万円

費用総合計 130万円/年

費用の確保が必要

ジュニア育成・強化基金の創設

1. 栃木県の選手登録料にジュニア基金として300円を上乗せし負担していただく
2. これにより現在約3,000人の登録者をベースにして約90万円が確保可能
3. ジュニア委員会の年間繰越金40万円を合せ合計で約130万円となる。

基金創設日 2014年4月1日

基金として経理の透明性と公開性を確立するため別通帳を作成し監査対象とする。



将来を見据え、ジュニア育成に特化して栃木のジュニア100年の計の礎を築きたい。